

日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度(平成31年度)	科目名	楽器レッスン2	
科目基礎情報					
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	ヴォーカリストコース	開設期	後期
対象年次	1年次	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	1単位	授業形態	実技		
教科書/教材	毎回レジュメ・資料を配布する。参考書・参考資料等は、授業中に指示する。				
担当教員情報					
担当教員	二村	実務経験の有無・職種	有・音楽教室ピアノ講師		
学習目的					
各楽器のプレイヤーが音楽活動の幅を広げるため、大譜表(ピアノ譜)やコード譜を読みピアノを弾くことができるようになることを目的としている。簡単なバックングや弾き語りで演奏できるようにする。ピアノを弾けるようになることによって読譜や音符リズム、コードの構成、ルートやベース音のことが理解できるようになり、各自の専攻の楽器の演奏の上達にもつなげる。ピアノを演奏するためには思うように指が動くことが必要となってくるので、左右の指の1本1本に自由度を得る事を目的とする。					
到達目標					
本科目はグレード対応科目となっており、1年次後期はグレード6～10に準拠して授業が進行する。指を独立させて動かせるようにする。正しいフォームで弾くようにすること。到達目標は次のとおりとする。「大譜表を読んで弾くことができ、コード譜を見ながら任意のテンポにてリズムをキープしながら左右でコードバックングが弾けるようになること。コードの転回形、分数コードが理解できるようになること。3つ以上のコードでコード進行が作れるようになること。楽器のセッティングやPAへの接続と音出しについても一人でできるようになること。ピアノの弾き語りができるようになる。					
教育方法等					
授業概要	前期同様まず指を自由に動かすためのエクササイズから始める。慣れない指を動かすすぎて痛めてしまわないように留意しながらウォーミングアップとしてゆっくりしたテンポから徐々に上げていく。そして高音記号と低音記号の「音符の玉」と鍵盤の位置が素早く一致できるようにできるだけ多くの譜面を読む。両手でタイミングがずれないように気をつけながら練習する。コードネームを見ながらコードバックングをテンポキープしてを弾く練習に移る。指を休めるため授業中に小休止の時間をとる。				
注意点	各自のピアノの音に集中するためヘッドホンを使用する。楽器への対応のためにヘッドフォンジャックから標準ジャックへの変換プラグを各自用意すること。キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度には厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める(詳しくは、最初の授業で説明)。音楽業界の動きや最先端プレイヤー等について概説するので、自分でも情報を収集し、演奏技術の向上に努める事。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備考		
	試験・課題	30%	試験と課題を総合的に評価する		
	小テスト	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	実技	20%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	授業内発表	30%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する		
平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する			
授業計画(1回～15回)					
回	授業内容	各回の到達目標			
1回	調号が付いたメジャースケール(1)	グレード6に対応。♯系メジャースケール。Gメジャー、Dメジャー、Aメジャーキーを両手で弾くことができる。			
2回	調号が付いたメジャースケール(2)	グレード6に対応。♭系メジャースケール。Fメジャー、B♭メジャー、E♭メジャーキーを両手で弾くことができる。			
3回	エレピのセッティング	グレード7対応。出したい音色を選び、PAに接続し音を調整して出すことができる。			
4回	グレード6、7 小テスト	楽器を一人でセッティングし、PAに接続し音を出せる。その音でCを除く3種類のメジャースケールを弾ける。			
5回	コード譜をみてバックング(1)	グレード8対応。コード譜を見て、コード進行がスムーズに弾けるようになる。			
6回	コード譜をみてバックング(2)	グレード8対応。コード譜を読み、リズムをつけながら弾くことができるようになる。			
7回	コード譜をみてバックング(3)	グレード8対応。コード譜を読み、リズムをつけテンポをキープしながら弾くことができる。			
8回	コード譜をみてバックング(4)	グレード8対応。コード譜を読み、テンポ120=8分音符で演奏することができるようになる。			
9回	コード転回形	グレード9対応。コードの転回形を理解して、弾けるようになる。			
10回	コード転回形と分数コード	グレード9対応。分数コードの表記と意味を理解して弾くことができる。			
11回	グレード8、9 小テスト	転回形、分数コードを含むコード進行の譜面をテンポ120=8分音符でキープして弾くことができる。			
12回	コード進行を自作する(1)	グレード10に対応。3コードを理解して演奏することができる。			
13回	コード進行を自作する(2)	グレード10に対応。3つ以上のコードを使いコード進行を自作できる。			
14回	コード進行を自作する(3)	グレード10に対応。3つ以上のコードを使いコード進行を自作できる。			
15回	自作したコード進行を演奏	グレード10に対応。コード進行を自作し、それを演奏することができる。			

日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度(平成31年度)	科目名	楽器レッスン2	
科目基礎情報					
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	サウンドクリエイターコース	開設期	後期
対象年次	1年次	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	1単位	授業形態	実習		
教科書/教材	毎回レジュメ・資料を配布する。参考書・参考資料等は、授業中に指示する。				
担当教員情報					
担当教員	杉本	実務経験の有無・職種	有・ミュージシャン		
学習目的					
楽曲を制作するには、基本的なスケールやコード感を理解している必要がある。そして合理的でスムーズな音楽制作に鍵盤は必要不可欠なツールとなっている。この科目では基礎的なピアノの奏法を学ぶ事によって、楽曲制作に必要なスケールやコード感を鍵盤を通して体得し、スムーズな音楽制作に役立てるようにする。さらには、音楽家としての表現の幅を広げるために、弾き語りでのピアノ演奏ができることを目的とする。					
到達目標					
本科目はグレード対応科目となっており、1年次後期はグレード6～10に準拠して授業が進行する。指を独立させて動かせるようにする。正しいフォームで弾くようにすること。到達目標は次の通りとする。「大譜表を読んで弾くことができ、コード譜を見ながら任意のテンポにてリズムをキープしながら左右でコードバックが弾けるようになること。コードの転回形、分数コードが理解できるようになること。3つ以上のコードでコード進行が作れるようになること。楽器のセッティングやPAへの接続と音出しについても一人でできるようになること。ピアノの弾き語りができるようになること。					
教育方法等					
授業概要	基本的にはグループレッスン形式で進行するが、学生の個々の習得具合によって個人レッスンも取り入れる。ピアノ演奏を習得する事によって、鍵盤で弾いたコードに対してどのようなメロディーが合うのか、または、メロディーに対してどのようなコードが合うのかを理解し、音楽制作に発展させる。さらには音楽制作だけでなく、自身が表現者となり、ピアノ弾き語りができるようになる事を目指す。				
注意点	キャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める(詳しくは、最初の授業で説明)。一度弾けたからクリアではなく、弾けるようになったら何度でも練習し演奏技能の向上に努める事。譜面を読んでピアノが弾ける事を目的とするので他の楽器での演奏は認められない。ヘッドホンは必ず持参する事。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験	20%	試験と課題を総合的に評価する		
	小テスト	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	提出物	20%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	成果発表 (口頭・実技)	30%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する		
平常点	20%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する			
授業計画(1回～15回)					
回	授業内容	各回の到達目標			
1回	前期の復習	グレード1~5対応。譜面を見ながら鍵盤の基本奏法の理解と習得。			
2回	メジャースケール応用(1)	グレード6対応。調号3つまでの長音階を両手で弾ける。			
3回	メジャースケール応用(2)	グレード6対応。調号3つまでの長音階を両手で弾ける。			
4回	PAセッティング(1)	グレード7対応。エレピを自らセッティングし、音色の調整をしてPAから音を出す事ができる。			
5回	PAセッティング(2)	グレード7対応。エレピを自らセッティングし、音色の調整をしてPAから音を出す事ができる。			
6回	コードバック(1)	グレード8対応。指定のコードに対してバック(テンポ120の8分音符)を演奏できる。			
7回	コードバック(2)	グレード8対応。指定のコードに対してバック(テンポ120の8分音符)を演奏できる。			
8回	コードバック(3)	グレード8対応。指定のコードに対してバック(テンポ120の8分音符)を演奏できる。			
9回	コードの転回(1)	グレード9対応。コードの転回形と分数コードを演奏する事ができる。			
10回	コードの転回(2)	グレード9対応。コードの転回形と分数コードを演奏する事ができる。			
11回	コードの転回(3)	グレード9対応。コードの転回形と分数コードを演奏する事ができる。			
12回	コード進行の制作(1)	グレード10対応。3つ以上のコードを使って進行を作る事ができる。			
13回	コード進行の制作(2)	グレード10対応。3つ以上のコードを使って進行を作る事ができる。			
14回	コード進行の制作(3)	グレード10対応。3つ以上のコードを使って進行を作る事ができる。			
15回	まとめ	全体のまとめ			

日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度(平成31年度)	科目名	楽器レッスン2	
科目基礎情報					
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	プレイヤーコース	開設期	後期
対象年次	1年次	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	1単位	授業形態	実習		
教科書/教材	毎回レジュメ・資料を配布する。参考書・参考資料等は、授業中に指示する。				
担当教員情報					
担当教員	BAN	実務経験の有無・職種	有・ミュージシャン		
学習目的					
各楽器のプレイヤーが音楽活動の幅を広げるため、大譜表(ピアノ譜)やコード譜を読みピアノを弾くことができるようになることを目的としている。簡単なバックキックや弾き語りで演奏できるようにする。ピアノを弾けるようになることによって読譜や音符リズム、コードの構成、ルートやベース音のことが理解できるようになり、各自の専攻の楽器の演奏の上達にもつなげる。ピアノを演奏するためには思うように指が動くことが必要となってくるので、左右の指の1本1本を自由に動かすことができるようにする。					
到達目標					
本科目はグレード対応科目となっており、1年次後期はグレード6～10に準拠して授業が進行する。指を独立させて動かせるようにする。正しいフォームで弾くようにすること。到達目標は大譜表を読んで弾くことができ、コード譜を見ながら任意のテンポにてリズムをキープしながら左右でコードバックキックが弾けるようになること。コードの転回形、分数コードが理解できるようになること。3つ以上のコードでコード進行が作れるようになること。楽器のセッティングやPAへの接続と音出しについても一人でできるようになること。ピアノの弾き語りができるようになる。					
教育方法等					
授業概要	前期同様まず指を自由に動かすためのエクササイズから始める。慣れない指を動かさすぎて痛めてしまわないように留意しながらウォーミングアップとしてゆっくりしたテンポから徐々に上げていく。そして高音記号と低音記号の「音符の玉」と鍵盤の位置が素早く一致するようにできるだけ多くの譜面を読む。両手でタイミングがずれないように気をつけながら練習する。コードネームを見ながらコードバックキックをテンポキープしてを弾く練習に移る。指を休めるため授業中に小休止の時間をとる。				
注意点	各自のピアノの音に集中するためヘッドホンを使用する。楽器への対応のためにヘッドフォンジャックから標準ジャックへの変換プラグを各自用意すること。授業内に配った譜面やプリントは復習する事もあるので必ずファイルして毎回持ってくること。授業中の私語やスマホの利用、受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく積極的に参加すること。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法		割合	備考		
	試験	30%	試験と課題を総合的に評価する		
	小テスト	10%	授業内容の理解度を確認するためにいくつかのグレード履修後に実施する。		
	提出物	20%	授業内容の理解度を確認するために実施する。グレード10履修時に提出。		
	成果発表 (口頭・実技)	30%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する		
平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する			
授業計画(1回～15回)					
回	授業内容	各回の到達目標			
1回	調号が付いたメジャースケールの練習(1)	グレード6に対応。#系メジャースケール。Gメジャー、Dメジャー、Aメジャーキーを両手で弾くことができる。			
2回	調号が付いたメジャースケールの練習(2)	グレード6に対応。b系メジャースケール。Fメジャー、Bbメジャー、Ebメジャーキーを両手で弾くことができる。			
3回	エレピのセッティング	グレード7対応。出したい音色を選び、PAに接続し音を調整して出すことができる。			
4回	グレード6、7 小テスト	楽器を一人でセッティングし、PAに接続し音を出せる。その音でCを除く3種類のメジャースケールを弾ける。			
5回	コード譜をみてバックキック(1)	グレード8対応。コード譜を見て、コード進行がスムーズに弾けるようになる。			
6回	コード譜をみてバックキック(2)	グレード8対応。コード譜を読み、リズムをつけながら弾くことができるようになる。			
7回	コード譜をみてバックキック(3)	グレード8対応。コード譜を読み、リズムをつけテンポをキープしながら弾くことができる。			
8回	コード譜をみてバックキック(4)	グレード8対応。コード譜を読み、テンポ120=8分音符で演奏することができるようになる。			
9回	コード転回形	グレード9対応。コードの転回形を理解して、弾けるようになる。			
10回	コード転回形と分数コード	グレード9対応。分数コードの表記と意味を理解して弾くことができる。			
11回	グレード8、9 小テスト	転回形、分数コードを含むコード進行の譜面を見ながらテンポ120=8分音符でキープして弾くことができる。			
12回	コード進行を自作する(1)	グレード10に対応。3コードを理解して演奏することができる。			
13回	コード進行を自作する(2)	グレード10に対応。3つ以上のコードを使いコード進行を自作できる。			
14回	コード進行を自作する(3)	グレード10に対応。3つ以上のコードを使いコード進行を自作できる。			
15回	まとめ	全体のまとめ			